

科目区分	臨地実習	科目名	基礎看護学実習 I (対象と環境の理解)
単位数 (時間数)	1 単位 45 時間	実習時期/期間	1 年次 第 2 学期 / 5 日間
担当講師	実習担当者	実務経験の有無	全ての講師が経験有
科目目的	健康障害により日常生活が制限されている対象を理解し、看護活動に必要な基礎看護技術を実践する基礎的能力を養う。		
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の療養環境である病棟・病床の環境が理解できる。 2. 対象とコミュニケーションを図ることができる。 3. 入院や健康障害が対象に及ぼす影響が理解できる。 4. 対象に応じた日常生活援助を原理原則に基づいて実施できる。 5. 相手を尊重する態度を身につけることができる。 6. 自己研鑽し、主体的に学習する姿勢を身につけることができる。 7. 専門用語を用いて、事実に基づいた報告・記録ができる。 		
授業内容			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境 <ol style="list-style-type: none"> 1) 病棟の環境と設備 2) 病室・病床環境 3) 人的環境 4) 生活の場、治療の場 5) 環境調整の必要性 6) 入院前との生活環境の変化 2. 対象の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 患者の発達段階と発達課題 2) 患者の療養生活状況とその思い 3) 生活習慣と価値観 3. コミュニケーション <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護師の対象との対応と関わり方 2) 対象の状況に応じた情報の得方 	<ol style="list-style-type: none"> 4. 健康障害が対象に及ぼす影響 <ol style="list-style-type: none"> 1) 1 日の過ごし方、日常生活状況 2) 健康障害による症状と日常生活状況 5. 日常生活援助の実施 <ol style="list-style-type: none"> 1) 援助の必要性の把握 2) 患者に適した目標設定と援助方法の選択 3) 実施前・中・後の観察 4) 安全性・安楽性・自立性・個別性・効率性の遵守 5) 準備から後片付けまでの一連の行動の実施 6) 実施プロセスの評価とそれに基づく援助計画の追加・修正 		
【態度・学習姿勢・記録報告】※ <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者・家族・実習メンバーを尊重した態度 2. 情報管理 3. 主体的な学習姿勢 4. 約束の時間や提出物の期限の遵守 5. 報告・連絡・相談 6. 専門用語を用いた事実に基づく記録 			
授業方法	臨地実習	授業場所	四国こどもとおとなの医療センター 東徳島医療センター、高松医療センター
評価方法	下記内容を実習評価表 (100 点) に沿って評価する。 看護実践 実習態度 実習記録		
備考	実習要項に示された事前学習をする。 技術経験表を活用し、技術練習をして臨む。		

科目区分	臨地実習	科目名	基礎看護学実習Ⅱ（看護のプロセス）
単位数（時間数）	2単位 90時間	実習時期／期間	2年次 第1学期 /10日間
担当講師	実習担当者	実務経験の有無	全ての講師が経験有
科目目的	健康障害がある対象を理解し、健康回復のために必要な看護を実践する基礎的能力を養う。		
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象を理解するために必要な情報が収集できる。 2. 得られた情報を整理、解釈、総合、分析、統合、照合し、看護上の問題を挙げることができる。 3. 対象の看護上の問題を解決するための看護計画が立案できる。 4. 看護計画に基づき、対象の状況に応じた看護が実践できる。 5. 実施した看護を振り返り、成果に対して評価ができる。 6. 看護専門職としての必要な態度を身につけることができる。 7. 自己研鑽し、主体的に学習する姿勢を継続できる。 8. 専門用語を用いて事実に基づいた報告・記録ができる。 		
授業内容			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象理解のための情報収集 <ol style="list-style-type: none"> 1) 情報源 2) 収集方法 3) データベース・情報枠組みの活用 2. 情報解釈・分析・看護介入の必要性の明確化 <ol style="list-style-type: none"> 1) ニードの充足状況 2) 病態理解と治癒経過の把握 3) 健康逸脱の有無と程度の把握 4) 症状・徴候・関連因子の把握 5) 入院前の生活習慣 6) 対象の考え、思い 7) 対象の全体像の把握 8) 看護問題の明確化と優先順位の判断 		<ol style="list-style-type: none"> 3. 看護計画の立案 <ol style="list-style-type: none"> 1) 達成可能な長期目標、短期目標の設定 2) 目標達成につながる看護計画の立案 3) 実践可能で具体的な観察計画・ケア計画 指導（教育）計画 4. 看護計画に基づく看護実践 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実施可能かの判断 2) 対象の反応を捉えた生活援助の実践 3) 安全、安楽、自立性を考慮した援助 5. 看護実践の評価とフィードバック <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象の反応の捉え 2) 達成度の評価 3) 看護計画の追加・修正 	
【態度・学習姿勢・記録報告】			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者・家族・実習メンバーを尊重した態度 2. 情報管理 3. 主体的な学習姿勢 		<ol style="list-style-type: none"> 4. 約束の時間や提出物の期限の遵守 5. 報告・連絡・相談 6. 専門用語を用いた事実に基づく記録 	
授業方法	臨地実習	授業場所	四国こどもとおとなの医療センター 東徳島医療センター、高松医療センター
評価方法	下記内容を実習評価表（100点）に沿って評価する。 看護実践 実習態度 実習記録		
備考	実習要項に示された事前学習をする。日々の看護実践を実習記録で振り返る。技術経験表を活用し、技術練習をして臨む。		

科目区分	臨地実習	科目名	地域・在宅看護論実習Ⅰ (生活支援の看護)
単位数(時間数)	2単位 90時間	実習時期	2年次第2学期～3年次/10日間
担当講師	実習担当者	実務経験の有無	全ての講師が経験有
科目目的	地域や福祉施設で生活する在宅療養者及び家族を理解し、健康な生活を支援する基礎的実践力を習得する。		
科目目標	1. 健康障害をもち地域で生活する高齢者に必要な援助ができる。 2. 福祉施設で生活する高齢者に必要な援助ができる。		
授業内容			
1. 外来に通院しながら生活する高齢者の援助 1) 健康的な生活を送るための疾病予防支援 (1) 生活指導 (2) 服薬指導 (3) 健康教育 2) 高齢者の身体機能の変化に応じた診察及び処置時の援助の実施 (1) 患者観察と対応 (2) 案内、誘導、移送 (3) 衣服着脱介助 3) 検査・治療時の援助 4) 継続的支援のあり方 5) 受診行動と健康管理行動への支援		2. 老人福祉施設で生活する高齢者を支える保健医療福祉の連携の実際 3. 入所者の日常生活援助の実践 1) 生活習慣・日常生活行動のアセスメント 2) 認知機能に応じた日常生活援助 3) 寛ぎ、安心、安全な生活環境の整備	
【態度・学習姿勢・記録報告】			
1. 患者・家族・実習メンバーを尊重した態度 2. 情報管理 3. 主体的な学習姿勢		4. 約束の時間や提出物の期限の遵守 5. 報告・連絡・相談 6. 専門用語を用いた事実に基づく記録	
授業方法	臨地実習	授業場所	四国こどもとおとなの医療センター 成人外来 老人福祉施設：仙遊荘、まほろば
評価方法	下記内容を実習評価表(100点)に沿って評価する。 看護実践・実習態度・実習レポート		

科目区分	臨地実習	科目名	地域・在宅看護論実習Ⅱ (在宅療養者と家族の看護)
単位数(時間数)	2単位 90時間	実習時期	2年次第2学期～3年次/10日間
担当講師	実習担当者	実務経験の有無	全ての講師が経験有
科目目的	地域における看護活動を通して保健医療福祉の連携を理解し、在宅療養者及び家族の支援ができる基礎的実践力を習得する。		
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養者と家族の生活状況が理解できる。 2. 在宅療養者と家族が持つ健康上・生活上の問題を理解し、実施している日常生活援助や、医療処置の必要性がアセスメントできる。 3. 在宅療養者と家族に必要な援助が看護師とともに実施できる。 4. 在宅における保健医療福祉の連携が理解できる。 5. 地域連携室での看護の役割と連携の実際が理解できる。 		
授業内容			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養者の健康状態・心理・社会的状態 <ol style="list-style-type: none"> 1) 現疾患、現病歴 2) 治療方針・予後 3) 既往歴 4) 現在の治療・処置 5) 発達段階 6) 疾患や治療への思い 7) 家族への思い 8) 訪問看護へのニーズ 9) 利用している社会資源 10) 療養者の役割 11) 生活の中での価値観・生きがい・楽しみ 2. 在宅療養者と家族の生活状況、住環境 <ol style="list-style-type: none"> 1) 生活状況、住環境の実際 2) 家族関係 3) 健康や生活への思いや不安 4) 経済性 		<ol style="list-style-type: none"> 3. 健康上・生活上の問題に対する援助の実施 <ol style="list-style-type: none"> 1) 情報収集とアセスメント、問題の明確化 2) 医療処置の実際と工夫 3) 日常生活援助 4) 安全性の確保と事故防止対策 4. 在宅療養における多職種連携協働 <ol style="list-style-type: none"> 1) 保健医療チームの連携調整の実際 2) 社会資源の活用方法 3) 緊急時の対応 5. 地域連携室の看護師の役割と連携 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護師の役割と家族指導 2) 職種間連携と調整 3) 療育の実際 	
【態度・学習姿勢・記録報告】			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者・家族・実習メンバーを尊重した態度 2. 情報管理 3. 主体的な学習姿勢 		<ol style="list-style-type: none"> 4. 約束の時間や提出物の期限の遵守 5. 報告・連絡・相談 6. 専門用語を用いた事実に基づく記録 	
授業方法	臨地実習	授業場所	三豊総合病院訪問看護ステーション 永康病院訪問看護ステーション 前田病院訪問看護ステーション「愛の手」 香川生協訪問看護ステーション「ほがらか」 訪問看護ステーションソラウミ 四国こどもとおとなの医療センター 地域連携室
評価方法	下記内容を実習評価表(100点)に沿って評価する。 看護実践・実習態度・実習レポート		
備考	実習要項に示された事前学習をする。 技術経験録を活用し、経験可能な技術項目を練習して臨む。		

科目区分	臨地実習	科目名	成人老年看護学実習 I (急性・回復期の患者の看護)
単位数 (時間数)	2 単位 90 時間	実習時期/期間	2 年次第 2 学期～ 3 年次/ 10 日間
担当講師	実習担当者	実務経験の有無	全ての講師が経験有
科目目的	急性・回復期にある成人老年期の対象の特性を理解し、対象に応じた看護が実践できる能力を養う。		
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周手術期にある患者と家族の特徴が理解できる。 2. 周手術期にある患者の生命の維持に必要な看護が実施できる。 3. 手術後患者の回復に向けた特徴が理解できる。 4. 手術後患者の回復促進と日常生活行動の維持拡大に向けた看護が実施できる。 		
授業内容			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 急性期にある対象及び家族の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 術前の全身状態の把握・アセスメント 2) 術後に起こりやすい問題の予測 3) 手術を受ける対象と家族の精神社会的側面 2. 術前の看護実践 <ol style="list-style-type: none"> 1) 術前準備 <ol style="list-style-type: none"> (1) 術前オリエンテーション (2) 術後の合併症予防のための指導 2) 術後の病床環境整備 (術後ベッド作成) 3) 精神的援助 3. 術中の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 手術室入室から退室までの看護 2) 術中の対象の状態変化の観察 		<ol style="list-style-type: none"> 4. 術後の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 術直後の対象の状態変化 2) 術後合併症の徴候の観察とアセスメント 3) 術後合併症予防の援助 4) 輸液管理、ドレーン管理 5) 術後疼痛への援助 5. 回復を促進するための看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 回復状態に応じた日常生活援助 2) 社会復帰に向けた生活指導 3) 術後の機能変化に適応していくための生活支援と精神的支援 	
【態度・学習姿勢・記録報告】			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者・家族・実習メンバーを尊重した態度 2. 情報管理 3. 主体的な学習姿勢 		<ol style="list-style-type: none"> 4. 約束の時間や提出物の期限の遵守 5. 報告・連絡・相談 6. 専門用語を用いた事実に基づく記録 	
授業方法	臨地実習	授業場所	四国こどもとおとなの医療センター
評価方法	下記内容を実習評価表 (100 点) に沿って評価する。 看護実践 実習態度 実習記録		
備考	実習要項に示された事前学習をする。 技術経験表を活用し、技術練習をして臨む。		

科目区分	臨地実習	科目名	成人老年看護学実習Ⅱ (慢性期の患者の看護)
単位数(時間数)	2単位 90時間	実習時期/期間	2年次第2学期～3年次/ 10日間
担当講師	実習担当者	実務経験の有無	全ての講師が経験有
科目目的	慢性期にある成人老年期の対象の看護が実践できる基礎的能力を養う。		
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 慢性期にある対象および家族の身体的・精神的・社会的特徴を理解できる。 慢性期にある対象および家族の生活背景や価値観を考慮し生活の再調整を支援するための看護が理解できる。 慢性期にある対象が機能障害や症状を維持し、継続的にセルフマネジメントするために必要な看護が実施できる。 慢性期にある対象および家族に必要な社会資源および多職種との連携における看護師の役割を理解できる。 		
授業内容			
<ol style="list-style-type: none"> 慢性期にある対象及び家族の理解 <ol style="list-style-type: none"> 慢性疾患の病態と経過 日常生活に及ぼす影響 疾病の受容過程 生活の再調整に向けた強みとストレス 家庭や職場での役割変化 家族の受け止め、支援状況、経済状態 生活を再調整に必要な看護の理解 <ol style="list-style-type: none"> 対象と家族の入院前の生活環境、生活習慣の再調整支援 支援体制への再調整支援 対象が疾患を持ちながら自己管理していくための援助 		<ol style="list-style-type: none"> 対象の機能障害や症状に応じた日常生活援助 苦痛やストレスの理解と精神的支援 対象と家族の意思決定を尊重した支援 対象と家族の自己管理能力の把握 症状コントロールしていくための支援 主体的に継続的に自己管理できるための支援 各治療法に対する指導 対象及び家族に必要な社会資源の活用 <ol style="list-style-type: none"> 対象が利用可能な社会資源 資源活用に向け多職種連携 多職種連携のあり方と看護師の役割 	
【態度・学習姿勢・記録報告】			
<ol style="list-style-type: none"> 患者・家族・実習メンバーを尊重した態度 情報管理 主体的な学習姿勢 		<ol style="list-style-type: none"> 約束の時間や提出物の期限の遵守 報告・連絡・相談 専門用語を用いた事実に基づく記録 	
授業方法	臨地実習	授業場所	東徳島医療センター
評価方法	下記内容を実習評価表(100点)に沿って評価する。 看護実践 実習態度 実習記録		
備考	実習要項に示された事前学習をする。 技術経験表を活用し、技術練習をして臨む。		

科目区分	臨地実習	科目名	政策医療看護実習 I (神経・筋難病患者の看護)
単位数 (時間数)	2 単位 90 時間	実習時期	2 年次第 2 学期～ 3 年次 / 10 日間
担当講師	実習担当者	実務経験の有無	全ての講師が経験有
科目目的	難治性で予後不良にある神経・筋難病患者の特徴を理解し、対象に合わせた看護が実践できる能力を習得する。		
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経・筋難病患者の身体的・精神的・社会的特徴が理解できる。 2. 神経・筋難病患者の家族の特徴と役割が理解できる。 3. 神経・筋難病患者に必要な援助を看護師とともに安全・安楽に実施できる。 4. 神経・筋難病患者及び家族の思いを受けとめ支持的に関わることができる。 5. 神経・筋難病患者及び家族に必要な社会資源を述べるができる。 		
授業内容			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経・筋難病患者の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 病態と症状の特徴 2) 生活の場としての療養環境 3) 疾患の受け止め方と心理状態 4) 障害の程度と残存機能を活かしたセルフケア能力 5) 対象の生活機能とニード 2. 神経・筋難病患者の家族の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 家族の思い、ニード 2) 役割変化 3. 神経・筋難病患者に必要な看護の実践 <ol style="list-style-type: none"> 1) 安全・安楽に過ごせる療養環境整備 2) 障害の程度と希望を考慮した日常生活援助 3) 障害の意味、対象の反応の意味を捉えた支援 		<ol style="list-style-type: none"> 4) 残存機能を活かしたセルフケア 4. 神経・筋難病患者及び家族への支持的関わり <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象に応じたコミュニケーション 2) 傾聴、受容、共感的姿勢 3) 尊厳を守る 5. 必要な社会資源 <ol style="list-style-type: none"> 1) 提供の仕方や方法 	
【態度・学習姿勢・記録報告】			
<ol style="list-style-type: none"> 3. 患者・家族・実習メンバーを尊重した態度 4. 情報管理 3. 主体的な学習姿勢 		<ol style="list-style-type: none"> 4. 約束の時間や提出物の期限の遵守 5. 報告・連絡・相談 6. 専門用語を用いた事実に基づく記録 	
授業方法	臨地実習	授業場所	高松医療センター
評価方法	下記内容を実習評価表 (100 点) に沿って評価する。 看護実践・実習態度・実習レポート		
備考	実習要項に示された事前学習をする。 技術経験録を活用し、経験可能な技術項目を練習して臨む。		

科目区分	臨地実習	科目名	政策医療看護実習Ⅱ (重症心身障害者(児)の看護)
単位数(時間数)	2単位 90時間	実習時期	2年第2学期～3年次/10日間
担当講師	実習担当者	実務経験の有無	全ての講師が経験有
科目目的	長期療養中の障害のある対象を理解し、生活機能の維持とQOLの維持・向上を目指した看護が実践できる能力を習得する。		
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 長期療養をしている重症心身障害者(児)の身体的・精神的・社会的特徴や障害の程度について理解できる。 2. 長期療養をしている重症心身障害者(児)の様々な反応を捉え、その反応の意味を考えながら必要な援助について理解できる。 3. 長期療養している重症心身障害者(児)のもつ生活機能を活かしながら、日常生活援助が実施できる。 4. 長期療養している重症心身障害者(児)に必要な社会資源および、多職種との連携協働における看護師の役割を理解できる。 		
授業内容			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 重症心身障害者(児)の身体的・精神的特徴 <ol style="list-style-type: none"> 1) 身体的・知的障害の程度と判断 2) 障害が生活に及ぼす影響 3) 障害に伴う合併症 4) コミュニケーションの特徴 5) 適応行動と特性 2. 重症心身障害者(児)の意思や感情、欲求の読み取りと理解 3. 重症心身障害者(児)とのコミュニケーション 		<ol style="list-style-type: none"> 4. 生活機能を活かした日常生活援助の実施 5. 日常生活で起こり得る事故と対策 6. 重症心身障害者(児)とその家族を支援する保健医療福祉の連携協働 <ol style="list-style-type: none"> 1) 適用される社会資源の実際 2) 関係職種の役割と協働の実際 3) 教育の場との連携と調整(医教連携) 	
【態度・学習姿勢・記録報告】			
<ol style="list-style-type: none"> 5. 患者・家族・実習メンバーを尊重した態度 6. 情報管理 3. 主体的な学習姿勢 		<ol style="list-style-type: none"> 4. 約束の時間や提出物の期限の遵守 5. 報告・連絡・相談 6. 専門用語を用いた事実に基づく記録 	
授業方法	臨地実習	授業場所	四国こどもとおとなの医療センター 在宅支援通園センター「おひさま」
評価方法	下記内容を実習評価表(100点)に沿って評価する。 看護実践・実習態度・実習レポート		
備考	実習要項に示された事前学習をする。 技術経験録を活用し、経験可能な技術項目を練習して臨む。		

科目区分	臨地実習	科目名	小児看護学実習
単位数（時間数）	2単位 90時間	実習時期／期間	2年次第2学期～3年次／ 10日間
担当講師	実習担当者	実務経験の有無	全ての講師が経験有
科目目的	小児期にある対象の特徴を理解し、成長発達・連行レベルに応じた看護ができる。		
科目目標	1. 健康な小児（乳幼児期）の身体的・心理的・社会的特徴が理解できる。 2. 健康障害をもつ小児とその家族の特徴が理解できる。 3. 健康障害をもつ小児の健康レベル成長発達に応じた援助ができる。		
授業内容			
2. 基本的な生活習慣と保育 1) 基本的な生活習慣の自立 2) 発達にあわせた遊びの援助 3) 成長発達を促すかわり 4) 事故防止の対策と教育 3. 小児とその家族の理解と支援 1) 成長発達を支援するサポート体制 （母子関係、家族関係） 2) 家族の生活への影響と役割変化 3) 家族の疾病や治療の理解 4. 健康障害や入院が小児とその家族へ及ぼす影響 1) 病態と必要な治療処置 2) 疾病・治療が小児と家族に及ぼす影響 3) 入院形態と環境の変化が成長発達に及ぼす影響		5. 日常生活の援助 1) 基本的な生活習慣獲得と自立に向けての援助 2) 遊び、学習への支援 6. 小児の症状に対する援助 7. 治療・処置に伴う援助 1) 小児への説明と同意 2) 治療・処置に合わせた必要な援助 8. 小児と家族を取り巻く保健医療福祉の連携と看護師の役割	
【態度・学習姿勢・記録報告】 1. 患者・家族・実習メンバーを尊重した態度 2. 情報管理 3. 主体的な学習姿勢 4. 約束の時間や提出物の期限の遵守 5. 報告・連絡・相談 6. 専門用語を用いた事実に基づく記録			
授業方法	臨地実習	授業場所	カナン子育てプラザ 21 保育園 こぼと保育園 四国こどもとおとなの医療センター
評価方法	下記内容を実習評価表（100点）に沿って評価する。 看護実践 実習態度 実習記録		
備考	実習要項に示された事前学習をする。 技術経験表を活用し、技術練習をして臨む。		

科目区分	臨地実習	科目名	母性看護学実習
単位数（時間数）	2単位 90時間	実習時期／期間	2年次第2学期～3年次／10日間
担当講師	実習担当者	実務経験の有無	全ての講師が経験有
科目目的	母性の特徴を理解し、妊娠・分娩・産褥経過に応じた看護が実践できる。 新生児の特徴を理解し、新生児に必要な看護が実践できる。		
科目目標	1. 妊娠期にある対象を理解し、正常な経過を促進するための看護が理解できる。 2. 分娩各期にある対象を理解し、正常な経過を促進するための看護が理解できる。 3. 産褥期にある対象を理解し、正常な経過を促進するための援助ができる。 4. 母子関係、家族役割構築への看護が理解できる。 5. 新生児の生理的特徴を理解し、子宮外生活適応を順調にすすめるための援助が理解できる。 6. 健康問題のある妊産褥婦に必要な看護が理解できる。 7. 健康問題のある新生児に必要な看護が理解できる。		
授業内容			
1. 妊娠期の正常な経過の理解と妊婦の援助 1) 妊娠による母体の変化の観察 2) 妊婦の健康診査時の援助 3) 検査を受ける妊婦の援助 4) 妊婦への保健指導 2. 分娩期の正常な経過の理解と産婦の援助 1) 分娩進行状態の観察 2) 産痛緩和のための身体的ケア 3) 分娩直後の産婦の援助 3. 産褥期の正常な経過の理解と褥婦の援助 1) 退行性・進行性変化のための援助 2) 褥婦の精神的支援 3) 育児能力獲得への指導		4. 新生児の正常な経過の理解と援助 1) 新生児の正常な経過のアセスメント 2) 新生児への援助 3) 新生児に行われる検査の理解 5. 家族発達を促す援助 1) 家族役割の変化を理解 2) 愛着形成への援助 3) 家族の役割適応への援助 6. ハイリスク状態にある妊産褥婦の理解と援助 1) 切迫流早産 2) 帝王切開術を受ける産婦・受けた褥婦	
【態度・学習姿勢・記録報告】 1. 患者・家族・実習メンバーを尊重した態度 2. 情報管理 3. 主体的な学習姿勢 4. 約束の時間や提出物の期限の遵守 5. 報告・連絡・相談 6. 専門用語を用いた事実に基づく記録			
授業方法	臨地実習	授業場所	四国こどもとおとなの医療センター 三豊総合病院
評価方法	下記内容を実習評価表（100点）に沿って評価する。 看護実践 実習態度 実習記録		
備考	実習要項に示された事前学習をする。 技術経験表を活用し、技術練習をして臨む。		

科目区分	臨地実習	科目名	精神看護学実習
単位数（時間数）	2単位 90時間	実習時期／期間	2年次第2学期～3年次／ 10日間
担当講師	実習担当者	実務経験の有無	全ての講師が経験有
科目目的	精神障害を持つ対象の特徴を理解し、対象及びその家族に必要な看護が実践できる。		
科目目標	1. 精神障害を持つ対象の身体的・精神的・社会的特徴が理解できる。 2. 精神障害を持つ対象の思いを受けとめ、支持的に関わることができる。 3. 精神障害を持つ対象及びその家族に応じた援助を安全・安楽に実施できる。 4. 精神障害を持つ対象に必要な社会復帰に向けての援助が述べられる。		
授業内容			
1. 精神障害をもつ対象の理解 1) 発達段階と発達課題、生育歴、家族背景 2) 疾患による症状の理解 3) 精神障害に必要な治療の実際 薬物療法、精神療法、作業療法、レクリエーション療法) SST 4) 精神症状が生活に及ぼす影響 2. 精神障害をもつ対象の状態に応じた日常生活への援助 1) 安全な療養環境の調整 2) 患者のセルフケア行動を支援する援助		3. 治療を受ける対象への援助 4. 対象の思いを受けとめ、支持的に関わるためのコミュニケーション 5. 対象の社会復帰に向けた援助 1) 社会資源の活用 2) 家族の意思決定支援 2) デイケアの役割と機能 3) 関係職種との連携調整	
【態度・学習姿勢・記録報告】			
1. 患者・家族・実習メンバーを尊重した態度 2. 情報管理 3. 主体的な学習姿勢		4. 約束の時間や提出物の期限の遵守 5. 報告・連絡・相談 6. 専門用語を用いた事実に基づく記録	
授業方法	臨地実習	授業場所	丸亀病院
評価方法	下記内容を実習評価表（100点）に沿って評価する。 看護実践 実習態度 実習記録		
備考	実習要項に示された事前学習をする。 技術経験表を活用し、技術練習をして臨む。		

科目区分	臨地実習	科目名	統合看護実習
単位数（時間数）	2単位 90時間	実習時期／期間	3年次後期／ 10日間
担当講師	実習担当者	実務経験の有無	全ての講師が経験有
科目目的	臨床における看護の複雑な状況下において、個と全体を見ることのできる状況判断能力や処理能力を習得する。 看護管理の実際をとおして、保健・医療・福祉における看護の役割と機能および継続性を理解する。		
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護チームの一員として、複数患者の健康状態に応じた援助の優先順位の判断と時間管理を行い、看護実践に取り組むことができる。 2. 医療チームにおける、コーディネーターの役割と連携の実際が理解できる。 3. 病棟における看護管理の実際が理解できる。 4. 夜間の看護体制と看護の実際が理解でき、必要な援助ができる。 		
授業内容			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 複数患者の援助の優先順位と時間管理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 受け持ち患者の状態と日課の把握 2) 援助の優先度の判断とその根拠 3) 適切な時間での実施と評価 4) 予定検査処置の確認と調整 5) 適時適正な連絡・報告・調整 2. コーディネーターの役割と業務 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医師への報告・連絡調整 2) チーム及びスタッフへの連絡調整 3) 他部門との連絡調整 3. 病棟管理・看護管理の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) 病院組織における看護管理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 看護組織としての機能 (2) 看護方式 		<ol style="list-style-type: none"> 2) 病棟管理者の役割と業務 <ol style="list-style-type: none"> (1) 病床管理 (2) スタッフ・看護学生の教育指導 (3) 安全管理・物品管理 (4) 看護部組織の中での報告・連絡調整 (5) 職員の適正な配置 (6) 勤務時間管理の実際 (7) 職員の健康管理 4. 夜間の看護管理体制と業務の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) 夜間の看護管理体制の理解 2) 夜勤の業務内容の理解 3) 夜間の日常生活援助の理解 4) 夜間の患者の安全管理 5) 夜間の患者の状態と観察 	
【態度・学習姿勢・記録報告】			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者・家族・実習メンバーを尊重した態度 2. 情報管理 3. 主体的な学習姿勢 		<ol style="list-style-type: none"> 4. 約束の時間や提出物の期限の遵守 5. 報告・連絡・相談 6. 専門用語を用いた事実に基づく記録 	
授業方法	臨地実習	授業場所	四国こどもとおとなの医療センター
評価方法	下記内容を実習評価表（100点）に沿って評価する。 看護実践 実習態度 実習記録		
備考	実習要項に示された事前学習をする。 技術経験表を活用し、技術練習をして臨む。		